

辻和之先生の

第81回

健康コーナー

わかりやすい東洋医学講座

第30回 心と肺

東洋医学の基礎理論③⑩

《五臓の相互関係》

五臓は、それぞれ影響し合って生命活動を維持しています。その相互関係について言及したいと思います。

五臓の中の二臓の組み合わせは、10組あります。

1. 心と肺
2. 心と脾
3. 心と肝
4. 心と腎
5. 肺と脾
6. 肺と肝
7. 肺と腎
8. 肝と脾
9. 肝と腎
10. 脾と腎

今回は1の《心と肺》についてみてみましょう。

1. 心と肺

【心と肺の正常関係】

肺と心の関係(図1)において、

肺は、**氣を主り**(主＝全身の氣を運ぶ)、呼吸を主宰する以外に、**宗氣**(宗＝推し出すパワー)を持った氣のことを云います。推动作用を強く示す氣で心拍運動や呼吸運動を促進し、発声にも関与)を生成して血を巡らします。さらに肺氣を宣發・肅降させて「百脈を集める」と云って全身の血の循環速度を調節します。

心は、血脈を主りますが(＝全身の血液を運ぶ)、この行血(血の循環)は、心のみによるものでなく、肺で生成された宗氣の手助けも要ります。心は、肺を滋養して、肺の宗氣の生成にも関与します。つまり肺氣は、血で作られ、心血は宗氣の力で循環します。
このように心と肺は、生理上密接な関係にあります。

【心と肺の病的関係】

病的な状態(図2)では、(図3)

慢性的な肺疾患による長引く咳嗽、慢性疲労などで肺の機能が低下(肺氣虚)すると、宗氣が不足して血を動かす推动作用の低下により心の機能低下(心氣虚)となって血の循環も不良になります。

逆に病後や慢性疾患などによって心の機能が低下(心氣虚)して、心は宗氣を肺に運べず、肺への滋養が低下して肺氣虚に陥り易くなります。例えば、心疾患で心氣が不足して血の運行が長期間障害された後に肺氣の宣發・肅降が障害されて呼吸困難を訴えるケースがあります。(西洋医学では、心不全から呼吸困難を来す心臓喘息が該当するものと思われれます。)

このように心氣虚と肺氣虚の症状が同時に出やすくなります。この病態を心肺氣虚と云います。心肺氣虚(図3、4)では、①心氣虚症状(推动作用の低下)として動悸・息切れ

を生じ、体動や過労、冷感刺激で悪化します。冷感も伴います。ひどくなると浮腫を生じます。

②肺氣虚として息切れ・咳嗽・喀痰(白色や透明で多量の痰が多い)・呼吸困難・自汗(日中いつもかく汗のことを云う。体動で増強する。盗汗は、寝汗)・易感冒・弱々しい声、宗氣の不足により顔色蒼白・疲労倦怠感・冷感・めまいなどを生じます。

【治方】

心と肺の機能を補います。慢性咳嗽・動悸発汗・息切れ・易感冒には、補肺湯(桑白皮、熟地黄、人参、紫苑、黄耆、五味子)、倦怠感・動悸・息切れに保元湯(黄耆、人参、肉桂、炙甘草、生姜)、易感冒・易発汗には、玉屏風散(黄耆、白朮、防風)を用います。

図1. 心と肺の関係

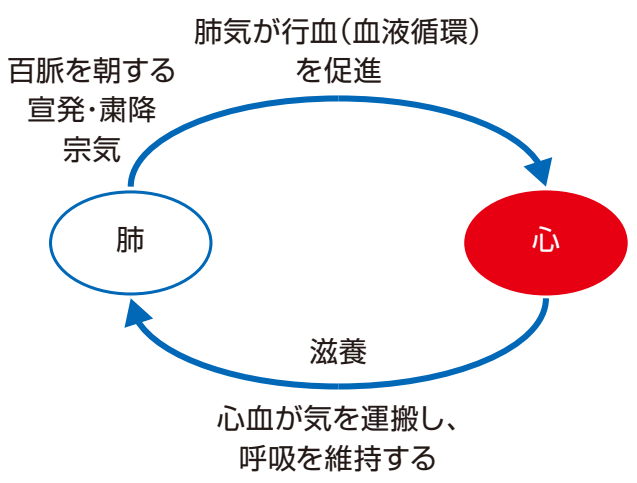


図2. 心と肺の病的関係

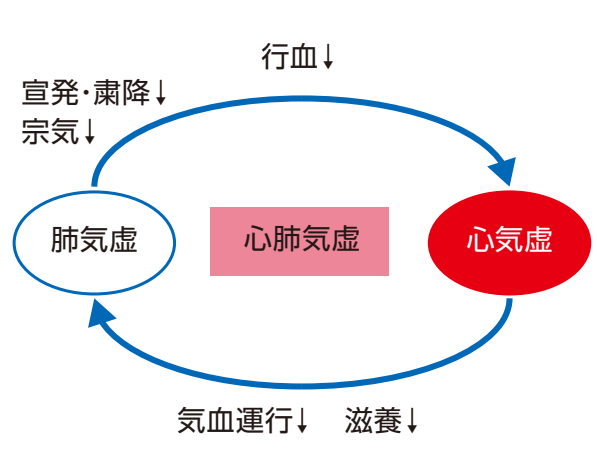


図3. 心肺気虚

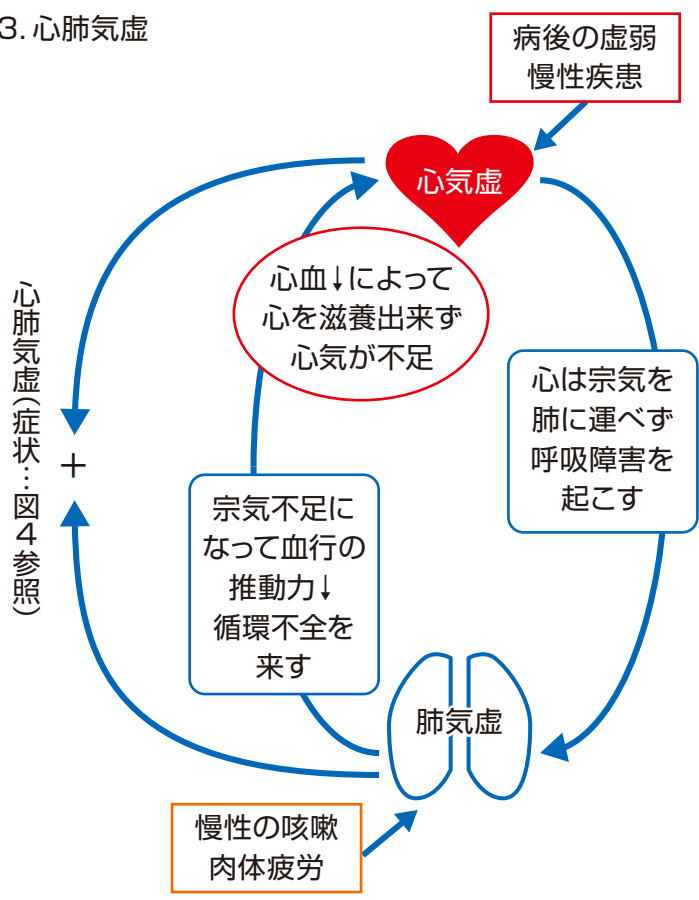


図4. 心肺気虚の症状

- 《心》・推动作用の低下
心悸(動悸して情緒不安定になる)、顔面蒼白、気虚による血瘀、無力感、全身倦怠
- 《肺》・肺気不足
息切れ、浅い呼吸、咳嗽して喘鳴(ゼイゼイ)
- ・宣発作用の低下
水様痰(水液が宣散出来ずに体外に出て行かず、水液が集まって痰を形成)
- ・肅降作用の低下
胸悶(肅降作用低下で気を各臓腑に供給できないため、息苦しさ、胸が詰まる、胸が腫る、落ち着かないような胸の不快感)
- ・衛気の固摂作用の低下
自汗



医療法人社団和漢全人会花月クリニック

昭和26年 北海道江差町に生まれる
 昭和50年 千葉大学薬学部卒業
 昭和57年 旭川医科大学卒業
 平成 4年 医学博士取得
 平成10年 新十津川で
 医療法人和漢全人会花月クリニック開設
 日本東洋医学会 専門医
 日本糖尿病学会 専門医
 日本内科学会 認定医
 日本内視鏡学会 認定医



和 之
 花月クリニック
 医療法人和漢全人会
 日本東洋医学会専門医
 医学博士